

第9回総会及び懇親会を開催

平成26年10月4日(土)、茨城大学茨苑会館において「第9回茨城大学同窓会連合会総会」が開催されました。

総会は、臼井敏雄会長の開会挨拶に始まり、この9月に就任した三村信男学長(連合会名誉会長)からの挨拶の後、「平成25年度事業及び会計報告」、「平成26年度事業計画及び予算」及び「平成26・27年度役員選任」の3件の議事が諮られ、審議の結果、福地省行農学部同窓会会長の新会長就任など、それぞれ満場一致で承認されました。また、各学部同窓会から活動報告があり、さらに大学側から茨城大学社会連携事業会への寄付協力に対する謝辞や、リニュー

アルした図書館の紹介などがありました。おって、役員から大学へ、学園祭時におけるホームカミングデー開催の提案があり、実現に向け、連合会と大学で検討していくことが了承されました。

総会後には、会場を茨苑会館「レストランSHIEN」に移して懇親会が開催され、総勢45名が出席しました。出席者は各々近況を語り合い、情報交換を図るなど、終始和やかに歓談し、同窓会と大学のより一層の発展を祈念して閉会となりました。

なお、懇親会終了後、図書館の見学会が催され、担当者の案内のもと熱心に見学する姿がみられました。

平成25年度 (H25.10.1~H26.9.30) 事業報告・収支決算

年月日	事業	摘要
H25/10/5	第8回総会・懇親会	
H25/12/6	第26回幹事会	①会報(第8号)の発行について
H25/12/17	「茨城大学社会連携事業会」へ寄付	5万円を寄贈
H26/3/1	会報「第8号」発行	発行部数:5,000部
H26/8/5	第27回幹事会	①事業活動について ②平成25年度事業・会計報告(案)及び平成26年度事業計画・予算(案)について
H26/9/18	茨城大学役員との懇談会	①大学に係る近況報告等 ②各同窓会からの近況報告・要望等
H26/10/4	第28回幹事会	①平成25年度事業及び会計報告について ②平成26年度事業計画及び予算について ③平成26・27年度役員について

事項	収入		支出	
	決算額	備考	決算額	備考
1 繰越金	1,022,348	円		
2 会費	250,000	同窓会連合会費 (@5万円×5学部同窓会)		
3 事業費	99,000	第8回懇親会費 (@3千円×33名)		
4 預金利息	171	2月分・8月分		
合計	1,371,519		合計	312,721

[収入]1,371,519円-[支出]312,721円=[残額]1,058,798円(平成26年度へ繰越)

平成26年度 (H26.10.1~H27.9.30) 事業計画・予算

年月日	事業	摘要
H26/10/4	第9回総会・懇親会	
H26/11	第29回幹事会	①会報(第9号)の発行について ②ホームカミングデーの開催について
H26/12	「茨城大学社会連携事業会」へ寄付	(5万円を寄贈)
H27/3/1	会報「第9号」発行	
H27/5	第30回幹事会	①事業活動について
H27/7	茨城大学役員との懇談会	①大学に係る近況報告等 ②各同窓会からの近況報告・要望等
H27/7	第31回幹事会	①第10回総会・懇親会について ②平成26年度事業・会計報告(案)及び平成27年度事業計画・予算(案)について
H27/10/3	第32回幹事会	①平成26年度事業及び会計報告について ②平成27年度事業計画及び予算について

\* H27/10/3(土);第10回総会・懇親会(予定)

事項	収入		支出	
	予算額	備考	予算額	備考
1 前年度繰越金	1,058,798	円		
2 会費等	250,000	同窓会連合会費 (@5万円×5学部同窓会)		
3 事業費	120,000	同窓会連合会懇親会費 (@3千円×40名)		
4 預金利息	202			
合計	1,429,000		合計	1,429,000

茨城大学同窓会連合会役員

- 名誉会長 三村 信男(茨城大学学長)
- 顧問 伏見 厚次郎(茨城大学理事・副学長)
- 顧問 尾崎 久記(茨城大学理事・副学長)
- 会長 福地 省行(農学部同窓会会長)
- 副会長 土田 惣一(文理・人文学部同窓会会長)
- 副会長 堀川 賢壽(教育学部同窓会会長)
- 副会長 久保田 益充(理学部同窓会会長)
- 副会長 塩幡 宏規(多賀工業会会長)
- 代表幹事 黒田 久雄(農学部同窓会幹事長)
- 幹事 糟谷 政和(文理・人文学部同窓会幹事長)
- 幹事 佐藤 瑛一(教育学部同窓会幹事長)
- 幹事 山村 靖夫(理学部同窓会常任幹事)
- 幹事 原田 隆郎(多賀工業会理事)
- 幹事 小松崎 将一(農学部同窓会幹事)
- 会計監事 増子 節壽(文理・人文学部同窓会会計監事・事務局)
- 会計監事 原田 隆郎(多賀工業会理事)

編集後記

今年度より、同窓会連合会会長は、農学部卒業生の福地省行新会長に引き継がれました。臼井敏雄会長および大貫仁代表幹事には2年間運営にご尽力されたこと厚く御礼申し上げます。

茨城大学の新学長に三村信男学長が就任され、同窓会連合会にも大きな期待が寄せられていることがヒシヒシと伝わってきます。10月の同窓会連合会総会時にホームカミングデー開催要望がありました。次年度に開催すれば良いかと思っておりましたが、三村学長は11月の茨苑祭時に「ホームカミングデー<トライアル>」として実行しました。広報もあまりできませんでしたが、今回を教訓に平成27年度にはトライアルをとった「ホームカミングデー」を開催することになると思います。同窓会連合会としても本年は協力という形しか取れませんが、三村新学長の下この企画を発展させ同窓生にとっての茨城大学をより身近な存在にしていきたいと思えます。この2年間よろしくお願ひします。

平成27年3月 茨城大学同窓会連合会代表幹事 黒田 久雄



茨城大学同窓会連合会会報

2015.3  
第9号



農学部(阿見キャンパス)



リニューアルオープンした図書館(水戸キャンパス)

第5代会長に就任して



茨城大学同窓会連合会会長  
福地 省行

第9回総会において、会長に選任されました農学部同窓会長の福地省行です。その責任の重さに身の引き締まる思いでござ

います。各学部同窓会のご協力をいただきながら、精一杯務めてまいりますのでよろしくお願ひいたします。

今、我が国では、少子高齢化、一極集中等の中でこれからは地方創生の時代と言われ、地域活性化が課題となっています。しかしながら、茨城の魅力度は全国の中できわめて低い評価になっています。この茨城の魅力を高めていくためには、県、市町村、企業団体、そして大学が一体となって知恵を出し合い、地域の活性化に取り組んでいかなければなりません。現在、茨城大学では、「茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成」に取り組み、自治体、企業などと連携し、大学が地域再生の拠点となることをめざしております。同窓会連合会といたしましても、茨城大学と連携を図りながら魅力ある茨城づくりに協力してまいります。そのためには、同窓生に「今の茨城大学の姿」を是非知っていただくことが必要であり、まずは、同窓会の皆様が気軽に大学に集える環境づくりを図っていきたくと考えております。

これからも大学、各学部同窓会とも密接な情報交換を行い、大学と連合会の発展に努めてまいりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

新しい茨城大学をめざして



茨城大学学長  
三村 信男

昨年9月1日に茨城大学長に就任した三村です。どうぞ宜しくお願い致します。

私は学長就任に当たって、「地域再生の知の拠点となる大学、その中で世界的な強み・特色が輝く大学」「学生が成長する学生中心の大学」という大学改革のビジョンを掲げました。その下で、俯瞰的な視野と深い専門性、実践力を持つ学生を育てる教育に変えていきたいと考えています。グローバル化し変化の激しい社会を生き抜いて行く力を育てるために、「教える」ことから「主体的に学ぶ」教育への転換を図ります。「地域再生の拠点となる大学」では、昨年、文部科学省の「大学の地(知)の拠点整備事業」に選定されました。これを通して、茨城県や市町村、企業、市民団体などの連携活動を一層広げる計画です。また、大学の国際化の一環として、インドネシアやタイとの学生相互派遣教育をスタートさせました。さらに農学部で、英語の講義だけで卒業できる国際コースの設置を検討するなど、あらゆる面で新しい茨城大学を目指そうとしています。

昨年の同窓会連合会で、大学と同窓会の関係がこれまでになく強まっているという感想を頂きました。それを受けて、11月16日茨苑祭の機会に「ホームカミングデー<Trial>」を開催し、約40名の方に参加して頂きました。今後も、同窓会の皆様とのつながりをさらに強くし、新しい茨大へのご支援を頂ければと思います。

茨城大学同窓会連合会事務局  
(茨城大学総務課内)

〒310-8512 水戸市文京2-1-1  
電話: 029-228-8007 FAX: 029-228-8019

茨城大学HP

<http://www.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学同窓会連合会HP

<http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/alumnus/union/>

同窓会交流コーナー

文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会会長 土田 惣一



平成26年度は、総会のある年で、7月5日(土)に水戸市内で会員約80名の出席のもと総会&講演・懇親会が開かれました。総会後の講演会では、平成2年人文学科卒業の作家・高野史緒さんから、2012年の江戸川乱歩賞受賞作「カラマーゾフの妹」誕生の経緯などを丁寧にお話していただきました。その後の懇親会では、同期ごとに近況報告等のスピーチとともに写真撮影をしながら、横・縦の親睦交流を大いに図ったところでありました。

また、職域・地域支部として位置づけてます①県

庁茨大同窓会(学部横断)が、10月16日に、②常陽銀行の常陽茨苑会(学部横断)が、9月13日に、③県南同窓会(学部横断)が、6月21日に農学部こぶし会館で、夫々開かれ、新規会員の紹介、各人の近況報告などで、先輩後輩間の交流が賑やかな雰囲気の中で執り行われました。

また、在学生の士気高揚と学生の同窓会認知度を高めるため、第3回目となる学生懸賞論文を募集したところ、26篇の応募がありました。審査のうえ、12月に表彰式(優秀賞3篇、佳作4篇)を行ないました。なお、この在学生支援の事業は、平成25年設立の人文学部後援会と連携しながら取り組んでおります。

教育学部同窓会の近況報告

教育学部同窓会幹事長 佐藤 瑛一



教育学部同窓会では、6月の第4日曜日に総会と代議員会を隔年で開催することにしています。本年度は茨城大学教育学部附属小学校で平成26年6月22日に代議員会を開催しました。会に先立ち、幹事会を開き、平成25年度の事業・決算、平成26年度の事業計画・予算、役員・推戴員・幹事・監事の確認、会報の発行等について審議し、これらのことは代議員会でも承認しました。また、教育学部の先生方内、平成25・26年度で定年退職された10人の先生方についての報告があり、平成27年度の総会の折、例年通り記念品(美術科卒業生制作の壺)をお送りすることにしました。

会報の発行については、代議員会において事業部

編集委員会に一任されたので、平成26年9月6日に編集会議を開き、今号(47号)も特集テーマを組み、12月に発行しました。特集のテーマを「これからの学校教育に期待する」として、小中高校の現場を離れて、管理職を経験された方、大学の先生、教職以外の企業にいた方に執筆を依頼し、貴重な提言をいただきました。それは、「教育」を「地方創生」の柱の一つに、新しい道德教育の可能性―「道德」の教科化―、一石を投ず！(学校教育・大学教育の問題点を数多く列挙)の視点からの主張でした。また、毎号会報では、地域支部、教科支部の活動の様子(3支部)、会員の広場として、現場の先生方・教育実習を経験した学生(4名)の声を載せることもして、A5判、20頁で発行しています。

理学部同窓会の活動

理学部同窓会副会長 鈴木 忠和

理学部同窓会の活動を支えているものは常任幹事会、幹事会、総会です。常任幹事会は毎年4回開催され、同窓会の事務局としての役割を果たしています。会には総務、議事録、会報編集、ホームページ、会員・名簿、在学生交流推進、会計の担当常任幹事が割り当てられており、同窓会活動の推進を担っています。この常任幹事会の活動は、毎年1回開催される幹事会に報告され、その承認のもとに実行されています。幹事は原則として各卒業年度各学科1名で当該卒業年度学科の互選により選出されることになっていますが、実際には選出の方法が難しく、また最近の幹事会の出席率が悪いこともあって、先に開催された常任幹事会において幹事の選出法、新しい幹事の選考を検討するための委員会が設置され、検討していくことになっています。総会は4年ごと

に開催され、当該期(4年間)の活動計画の承認、役員改選、会則改正の承認等が諮られます。平成26年度に第6回の総会が開催され、第5期の活動計画、会則の改正と第6期役員の改選が承認されました(写真:中央は久保田会長と折山理学部長)。第6期目に入る理学部同窓会の活動はこの総会において承認された活動計画に沿って行われており、理学部長をはじめとする学部教職員の方々の協力をいただきながら順調な活動を行っています。



理学部同窓会第6回総会

工学部同窓会の会長に就任して

多賀工業会会長 塩幡 宏規



昨年1月に工学部同窓会「多賀工業会」会長を拝命しました昭和47年修士卒の塩幡宏規です。昭和16年に発足し、30,000名を超える卒業生を輩出した伝統ある同窓会の会長としてその責任の重さを実感しているところです。

昨年は就任1年目ということで、できるだけ多くの支部総会への出席を心がけ、北は仙台、南は九州までの14支部のうち12支部総会に出席しました。支部によって活動内容は異なりますが、趣味や特技を拝見するたびに素晴らしい同窓生が全国にたくさんいらっしゃると感じています。たとえば写真、俳句、絵画、工芸等々で個展を開いたり、各種催し物

に出展をするなどご活躍されています。また、定年を過ぎてもシニアとして、技術コンサルタントとしてご活躍されています。東京支部では女子会を発足させ活動しています。このように各支部ともに魅力ある活動を展開していますがその半面、共通の悩みは会員が高齢化していることです。この問題は深刻となってきていますので今後若手会員層への浸透を重要なテーマとして取り組みます。また、重要テーマとして大学との交流も引き続き取り組んでいきます。

昨年の活動としては会報の発行、理事会、工学祭への参加、4年ぶりの名簿発行などがありました。多くの本部・支部事業を通して、会員に愛され、会員に役立つ同窓会を目指してこれからは活動していきます。

農学部同窓会の活動について

農学部同窓会幹事長 黒田 久雄

農学部同窓会は、4月より福地新会長(同窓会連合新会長)を始め役員交代を行いました。平成26年5月17日(土)に第3回ホームカミングデーを1年次が阿見キャンパスに来る阿見オリエンテーションに合わせて開催しました。昼の時間にお集まりいただいた同窓生と在学生との懇談会を軽食をつまみながら行い、その後2名の卒業生から講演をしてもらいました。平成27年度も開催する予定ですが、主にホームページのご案内になってしまいますので農学部ホームページのチェックをお願いします。間に合えば農学部同窓会会報でも案内しますが、できるだけ口コミでの伝達もご協力ください。また、平成26年4月に5年間隔で刊行している平成26年度農学部同窓会

会員名簿を発行しました。名簿に関しては個人情報関係で作成は不要ではないかのご意見もいただいておりますが、農学部同窓会からの情報漏洩をしないように厳密に行っております。発行も完全予約制のため在庫はありませんので名簿希望の方は平成31年までお待ちください。今後、農学部同窓会では今後の運営を円滑に行うために規約改正を進めて行く予定です。また、阿見キャンパスでは、同窓会館「霞光荘」がありますので、卒年ごとなど小規模な同窓会も開催できますので是非ご利用ください。



オリエンテーションの様子

大学トピックス

地域に支えられ、地域に頼りにされる大学を目指して

茨城大学社会連携センター長 米倉 達広



同窓会連合会の皆様、昨年9月から副学長兼社会連携センター長を拝命した米倉達広です。よろしくお願いたします。社会連携センターは、大学と地域社会のインターフェイスを司る窓口としての役割を果たすべく、地域総合研究所、産官学連携イノベーション創成機構、生涯学習教育研究センター、地域連携推進本部という4つの全学センターを統合し、昨年4月に設置されました。この間、文部科学省からはCOC(地(知)の拠点整備)事業に採択されるなど、同センターのこれまでの成果が地域に定着しつつあり、地域社会に果たす茨城大学の役割は今後ますます強く期待されていくことと思います。最近では、政府による地方創

生力強化の流れを受けて、県内にも「茨城県まち・ひと・しごと創生本部」が設置され、地域再生に大学がどう関わっていくのかという議論が活発になってきました。今年茨城大学は三村学長の主導のもと、過疎化や高齢化などの課題を抱える県央地域、県北地域にまたがる3大学(茨城大学、常磐大学、茨城キリスト教大学)、1高専(茨城高専)による大学コンソーシアムを設立します。社会連携センターとしては、この趣旨を強く支えて参る所存です。大学の果たすべき役割はますます多岐に渡っていきませんが、そのなかで特に重要なのは地域と協働する人材育成であることは揺るぎません。同窓会の皆様におかれましても、今後とも我々大学とともに地域を支える人材育成にご支援、ご協力賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。